



様式第8号（第5条関係）

（その1）

令和3年4月30日

十和田市議会議長

畑山親弘様

会派名 日本共産党

経理責任者 小笠原良子

令和2年度 政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、
別紙のとおり令和2年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

令和2年度 政務活動費収支報告書

会派名 日本共産党

1 収 入

政務活動費 360,000円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	0	
研修費	10,500	1/30 市川房枝政治参画フォーラム資料代 (フォーラム映像収録の記録媒体代込み)
広報費	0	
広聴費	0	
要請・陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	28,860	書籍等
人件費	0	
事務所費	0	
合 計	39,360	

3 残 額 320,640円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

研 修 費

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党		
活動議員名 (取扱議員名)			
小笠原 良子			
区 分			合計金額
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印	
期間 (年月日)	令和3年1月30日		
支出目的 (支出理由)	1月30日 ・「市川房枝政治参画フォーラム 受講」		
用務先 (支払先)	公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センター		
内容及び成果	別紙 研修報告書のとおり		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

市川房江政治参画フォーラムの、音声資料をとりよせて

コロナ禍の中で、なかなか研修に出かける予定もない中、目にしたのがこのチラシ。つまりさまざま研修のチャンスがあったかもしれませんが、興味をもったのがこのテーマでした。過去にも参加したことのある会場でのフォーラム。

市川房江政治参画フォーラム

「コロナ禍、国・自治体はどう動く」でした。

会場への参加申し込みは叶わず、講師菅原敏夫氏、講師保坂展人氏、講師小竹雅子氏、講師小島美里氏のレジュメとともに、菅原氏、保坂氏、小島氏の音声入りのCDが届きました。1/30の市川房江政治参画フォーラムの音声受講一式を申し込むことになりました。

公益財団法人地方自治総合研究所 菅原敏夫氏は、21年度国・自治体の予算について一予算議会を前に・異例の予算編成、財源、財政を考える一でした。膨大なレジュメにかかれていたものは、1、はじめに21年度政府当初予算案 2、21年度政府予算案主要事業のポイント 3、予算編成過程+第三次補正予算案 4、21年度予算案自治体関連法律案 5、21年度予算案の焦点大臣折衝 6、地財対策と地財計画（自治体予算編成上の留意事項）に分けられています。

国の予算にかかわる大きな課題であり、かといって無関係でなく日常の身の回りにある重要な視点が貫かれているようであり、レジュメをみても一向に理解には苦しむ点多々あり、レジュメを手にしたことだけでも今後紐解く貴重な資料として大事にしていきたいと思いました。

次に「コロナ禍、国・自治体はどう動く」と、いう保坂展人提出の資料。ご存じのように保坂氏は世田谷区長として活躍のかた。区内の感染者数の推移とともに、PCR検査の推移についてもしっかりした状況を把握し、東京都内でも感染状況とともに、社会的検査を実施し、PCR検査をすすめてプール方式なるものを導入し、全国の先駆的存在として参考になるような、検査をすすめ、田村厚労省も、「5人分の検体を1つにまとめて検査する「プール方式」でのPCRについて自己負担のない行政検査の対象にすることを明らかにするなど、PCR検査（プール方式）を認めたのです。

次にレジュメは、音声にはないのが小竹雅子（市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰）氏の、どうなっているの？介護保険でした。

介護保険の制度がはじまって20年すぎたのですが、複雑な見直しが繰り返され、理解できない状態が続いているようで、以前から「保険あって介護なし」といわれましたが、今もサービスが使えない、負担が増えるという残念な状況も続いているようです。介護保険料も通帳からの天引きで支払いが大変という声をききます。

そして、最後のレジュメは小島美里氏氏（暮らしネット・えん）

「介護現場からの自治体議会で主張してほしいこと」です。1、コロナ禍の中での高齢者、障害者を守るために把握してほしいこと 2、自治体の介護保険状計画を確認する 3、介護保険改正・報酬改定関係 と、見出しに目をやれば、興味も薄く、学習がいかにも遅れているとかと反省しきり。いずれ家族のだれかが利用することになっても、しっかりと向き合っ利用できるのだろうか。疑問を持つと同時に今、利用されている方々の悩みや、困っていることがないのかと考えたりしてしまう。いずれにしても介護される人、介護する人がいるわけなので、介護現場について知らないことばかりであることに、初めて思いをめぐらさなければならぬと、思いました。

資料購入費

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党		
活動議員名 (取扱議員名)			
小笠原 良子			
区 分			合計金額
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印	
合計金額	28,860 円		
期間 (年月日)	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日		
支出目的 (支出理由)	資料購入費として		
用務先 (支払先)			
内容及び成果	別紙領収書のとおり		
	〈内 訳〉		
	書名・誌名	支払先	金額
	住民と自治 (月刊)	自治体研究社	1,160 円
	学習の友 (月刊)	青森県労働者学習協議会	5,520 円
	母親しんぶん (月刊)	日本母親大会連絡会	2,020 円
	ちいさいなかま	有限会社ちいさいなかま社	2,970 円
	原水協通信	青森県原水協原水爆禁止青森県協議会	3,390 円
	「農民」新聞 (週刊)	南部農民組合	7,800 円
	商工新聞 (週刊)	上十三民主商工会	6,000 円
合計		28,860 円	

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。